

<白金標準、関税要因を織り込みながら 4600 円以下は買い場・・・>



(出所：オアシス)

中国の国営新華社通信が国務院は、国民の所得押し上げによる消費回復に向けた措置を講じると報じ、中国の景気刺激策に対する期待感が高まりを見せている。特に米国のダウ平均はトランプ大統領の関税政策のリスクを嫌い、高値から修正を強めているが、中国株は習近平の政策を受けた株価の上昇を鮮明にしている。そのため景気商品である白金価格は、NY 市場で 1036.3 ドルまで高値を試し、白金標準先物も 4736 円まで戻りを見せている。

しかし日銀金融政策決定会合や FOMC では、トランプ大統領の相互関税の発動を 4 月 2 日に控え、静観するムードを強めており政策金利は据え置かれている。またトランプ大統領は 4 月 2 日を「米国の解放日」と発言するなど、関税リスクが高まりを見せる中で、相互関税に対する不透明感もあり、景気商品である白金標準先物は週末には 4550 円まで下値を模索している。特に 4451 円から 4736 円まで 285 円の上昇に対して 4550 円まで 186 円の下落を見せており、黄金比では 0.618 を超える下落率となるなど、需給に照らし合わせれば売られ過ぎの域と思われ、4600 円以下はアンダーシュートに思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が切り下げ、**シグナル** は上昇している。また RCI では**短期**が下げながら、**長期**は上昇している。特に日足が **10 日移動平均線**を下回るなど売られ過ぎの域と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,090,000円(2025年3月24日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復71,280円(2025年3月24日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>